



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

鶴丸生への期待

教頭 山之内 伸明

鶴丸生で、勉強のことについて悩まない生徒はいない。自分の進路実現に向けて勉強に本気になればなるほど、悩みは大きくなる。勉強したことは必ず力になっていく。努力を継続している自分、頑張ろうと前向きになれている自分を素直に認めたい。みんなとの比較のなかで「優秀だ」「ダメだ」と自己認識するのではなく、自分のなかに自分を肯定する眼をもちたい。青年期の発達課題は、自我同一性の確立である。尊大な自我同一性でも、卑下し劣等感の自我同一性でもない。挫折や成功体験、周囲からの批判や賞賛を通して、自分の弱さや頑張っている自分をみつめ、悩みもがきながら自己肯定感をもたせよう。他人の良さを認め、自分も必要がある。劣等感を払拭するには、大人を含めた周囲が承認する必要がある。

精神科医の香山リカ氏によると、「今の若者・子どもたちは、非常に自分に自信がない、自分が好きではない子どもが多い。そして、自分に自信がないとか、自分のことが好きではないことを隠している。彼らは必死で自分を大きく見せてたまには演技をしながら、自分は明るくて勉強好きで運動も好きな少年・少女だと一杯演じ、無理をして衝突を避けている」という。現代人の社会的性格は「他人指向型（リースマン）」と言われる。自分の良心や信念で行動するのではなく、他人の顔を伺い自分はどう見られているかが気になる。「酸いも甘いも」経験してきたはずの私の年齢になっても、周りの言動が気になり傷ついたりする。つい尊大になつたり、自信を失つたりする。「傲慢になつてはいけない、自棄になつてもいけない。得意のときに自分を深く反省して、逆境のときに自分

3月の行事予定

3月		
1	金	第64回卒業式
2	土	1年スタディサポート
3	日	
4	月	全校朝会 防犯教室
5	火	入学学力検査設営
6	水	入学学力検査 生徒自宅学習期間(～3/12)
7	木	入学学力検査
8	金	国公立大学中期日程試験(3/8～)
9	土	悠学講座⑩
10	日	
11	月	
12	火	第11回職員会議 国公立大後期日程試験(3/12～)
13	水	学校安全の日 スクールカウンセリング
14	木	合格者発表
15	金	合格者集合
16	土	
17	日	
18	月	学年朝会 第12回職員会議
19	火	
20	水	春分の日
21	木	職員研修
22	金	1・2年進路講演会
23	土	
24	日	
25	月	終業式 大掃除
26	火	第13回職員会議
27	水	
28	木	
29	金	離任式 合格体験を聞く会
30	土	
31	日	



の誇りを失わない、そんな生き方が大切だ。胸に留めておきたい。人々をうらやましむという心もあるが人と比較して自分も自分なりの強さや弱さやダメな自分を認めて、自分自身を精一杯やるしかない。

もう一つ気になるデータがある。日本青少年研究所による日本・アメリカ・韓国・中国の高校生が意識調査で、日本の高校生だけが突出して自己認識が肯定的で、自分の将来に希望を持って、また自分の国に誇りがもてないという。確かに「つまらないものですが、誇り」というように、日本は「誇り」や自国を卑下する必要はない。鶴丸生を含めた日本の高校生は、自分の歴史や文化にもっと誇りをもちたい。社会のなかでは、自分自身や自国文化をもっと積極的にアピールしなければ、真意は伝わらない。誤

解される。その時代の活力のパロメーターは、次世代を担う若者が健全な夢をもてるかどうかである。日本の若者が健全な夢を抱ける社会でありたい。学びを究めることで自分の興味や適性を知り、社会のなかで自分の果たすべき役割や責任を見つけてほしい。国語・社会・数学・理科・英語・芸術・家庭・体育等、すべての科目を必死に勉強できるのは高校までである。大学生や社会人になってからの勉強は、高校生までに培った土台に自分の興味ある分野を付け足しあるいは深く掘り下げていく作業である。盤石な土台がなければ、付け足し掘り下げるものも貧弱である。昨年十二月に欧州復興開発銀行で活躍する卒業生が、鶴丸での勉強が自分の土台になっていて話を聞いてくれた。鶴丸生で勉強のことで悩まない人はいないが、その努力が自分の土台をつくり、人生の幅を広げ、有為な人材として活躍する土台となっているのである。

みんなが担おうとするこれからの日本や世界はどうなるのか。アメリカやヨーロッパそして日本が、政治的・経済的に世界をリードしてきた時代は陰りを見せはじめている。代わって中国・インド・ブラジルそしてイランが、猛烈な経済発展を遂げつつある。しかし、依然として日本は世界からリスベクトされる国であり、世界の自然環境と人類の文明が行き詰まっている。今、日本の文化や思想・歴史は世界から注目されている。日本人の美徳は、皮肉にも東日本大震災で世界にひろく知られることになった。日本は網棚に荷物を載せて居眠りできる国であり、日本人はルールを守る国民ではない。日本は歴史のなかで積み上げてきた「ものづくりの産業基盤と技術力をもった国」である。山中伸弥教授の「天然資源のない日本は、科学的知財を生みだし、日本の力となしければならない」の発言どおり、正しい思想に立脚した科学技術は、確実に日本を救い人類に貢献していく。日本

緊張しながらも堂々と

校内弁論大会

2月8日(金)に2年生、13日(水)に1年生の校内弁論大会がそれぞれ開催された。クラス審査を経て選出された弁士たちが、各自の生活や経験に即し、意見を主張した。

- 21R 東條さわ子 T君と私
- 22R 坂脇幸介 地方に生きる鶴丸生
- 23R 富吉直樹 自分次第
- 24R 山下優美 当たり前の幸せ
- 25R 橋元彩 生きるということ
- 26R 守屋江利子 変化のルーツ
- 27R 川口滉二郎 パラドクス
- 28R 白濱佑佳 琥珀



2年生の部で、最優秀賞に選ばれた橋元彩さんは、二年連続の受賞。「生きる」という演題で、攻隊に關しての取材、戦争体験者である祖母の死や読書体験から幅広く

一年後、二年後を見据えて

自分の考えを論理的にまとめて、大勢の前で話すということは勇気がいることであり、覚悟も必要だ。また、信念をもって、意見を主張し、個性を發揮した弁士の姿を見て、触発された生徒も多いことだろう。様々なものの見方、考え方を学び、社会的な視野を広げる意義深い時間となった。

22日(金)から、校内は学年末考査期間だった。一年生は三年生に負けじとひたむきに取り組んでいた。写真は放課後の悠学館。静かな熱気に満ちていた。

明日、最後の校歌を歌い、学び舎を後にする三年生。毎年のことではあるが、国公立大前期日程を終えた安堵感も東の間、中期日程・後期日程に力も維持しなれない中での旅立ちである。なお、昨年夏から改修していった新しい体育館での卒業式となる。

いよいよ旅立ち 明日、第64回卒業式



晴れの門出の舞台を設営中(昨日の様子)